十日市、西城小に建設絵本

広島建設青年交流会らが寄贈

「街をつくり守る」仕事の魅力伝える

今年で2年目を迎える広島建設青年交流会の絵本贈呈事業で、同会の伏見光暁会長らは13日、三次市立十日市小学校と庄原市立西城小学校を訪問し、建設業に関連する絵本7種7冊と全生徒分の『建設学習帳』を寄贈した。これから会員34人が分担し、福山市、三次市、庄原市の全市立小学校（118校）に手渡しで配るという。

2校を訪問したのは、伏見会長（伏光組）、前川拓也副会長（栗本）、山田堅司幹事長（増岡組）、さらに県北の会員を代表して参加した熊高洋一幹事（熊高組）と永迫正治氏（加藤組）。

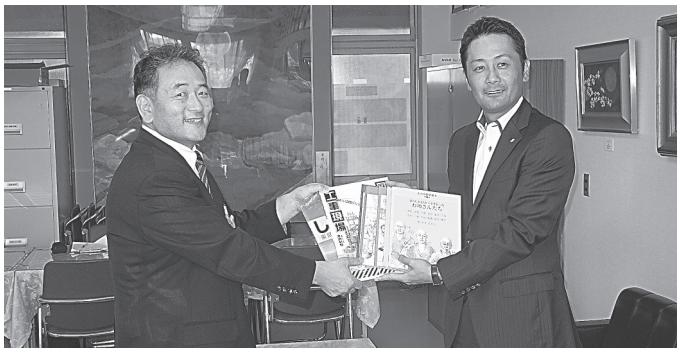
十日市小での贈呈式で坂田邦彦校長は、「最近は地元で大きな工事が少なく、労働と子どもの距離が離れていると感じる。働くことの意義を教えるキャリア教育の中でしっかりと活用させていただく」と深い感謝の意を表明。

また、西城小では渡部要校長のはからいで生徒6名も贈呈式に参加し、それぞれ感謝の言葉を伝えたのち、絵本と学習帳を受け取った。渡部校長は、「われわれの地元でも担い手が少なくなっており、建設業に入る人が減れば何かあったときに困る。将来の仕事として選ぶきっかけになれば」と述べた。

絵本の贈呈事業は、新規入職者不足に悩む建設業が子どもたちに建設業の魅力を伝えることで将来の新規入職者増と業界のイメージアップにつなげようと、当時の岡本弘之前会長（岡本組）らが中心となって発案し、始まったもの。

広島県建設工業協会、建設業福祉共済団、西日本建設業保証も趣旨に賛同してバックアップし、昨年は広島市内の全141校に計987冊を配った。来年以降も継続する予定で、県内の公立小学校全校への配布を当面の目標に掲げている。

伏見会長は、「依然として建設業のイメージが良くない中、実際にどういう仕事かを知ってもらう最初のスタートだと思う。入ってしまえば非常にやり甲斐のある仕事だし、街をつくり、守る仕事の魅力を伝えられれば」と話していた。



絵本を手渡す伏見会長㈲と十日市小・坂田校長

西城小の児童と交流会メンバーら